

ずいそう

チャレンジ！

池田 知 明



1. 出会い

幼かった子供のころ、風車や凧揚げ、シャボン玉などで遊んでいたことを思い出します。当たり前のことですがこれらの遊びには自然の力である風が関係していました。しかし年齢を重ねるにつれて、自然の力より必要な時に必要なだけ得ることのできる、便利な電気や機械による動力に頼ることが当たり前になりました。そのような中で改めて自然の力に回帰して楽しむことになるとは思っていませんでした。

50歳も半ばを過ぎ、膝や腰など体のあちこちで痛みを感じるようになりました。何をやるにも「ヨイショ！」「痛たたた！」などの言葉が自然と口から漏れ出るようになりました。父親の時代であれば定年退職となり次のステップに向かって進んでいるところですが、人生100年時代、私はまだ半分を越したところに過ぎず、まだまだ先の長い人生が残っています。周りの先輩方が生き活きと事業や趣味に取組まれ、次のステージを謳歌している姿を見ている中で、後輩の私が守りに入るにはまだ早い、何かチャレンジしなくては身体も頭も凝り固まってしまうと考えるようになりました。

このような意識が芽生えた中で、以前子供とドライブに行き浜辺を散歩していた時に目に入った「体験ウィンドサーフィン」の看板を思い出しました。これまで、マリンスポーツは年に1回か2回程度シュノーケリングを行う程度でしたので、海の上で体力や体幹を求められるウィンドサーフィンを、この年齢から始めることは可能なのか、また、若い人達ばかりでおじさんは仲間に入れないのではないかなどの不安を過りましたが、キラキラと輝く海の上を色とりどりの花びらのようなセイルが乱舞する風景を見て、まずは行動あるのみとショップの扉を押し開けました。

2. ウィンドサーフィンとは

1967年ごろにアメリカから日本に上陸し約50年が経過しました。ウィンドサーフィンはボード、マスト、セイル、ブームの大きくは4点で構成されています。

風があればどこにでも自由に動けるわけではなく、時計を例にすると、12時の方向にボードの先端が向いているとして、12時の方向から6時に向かって風が吹いてくるのであれば、10時半～1時半の間の45度がデッドゾーンとなり身動きが取れなくなってしまいます。理解はしているのですが、行きたい方向に無理やり向かおうとしてこのデッドゾーンに入り込み、身動きが取れなくなることがよくあります。これまでの人生でも条件が整わない中で無理やりに事を急ぐとスムーズに乗り越えることができない経験を積み重ねてきたはずですが、その経験を活かせず後から反省することとなります。

ウィンドサーフィンを取組む年齢層は幅広く、私がお世話になっているショップでは10代から70代までの方々が楽しんでいます。最近では60代から始められる方も多くなっています。逆に若年層の実施人口が低下しており、ウィンドサーフィンにおいても高齢化の波が押し寄せているようです。ウィンドサーフィンでは「スピード」「ジャンプ」「波乗り」など趣向にあった乗り方を楽しむことができますので、各々が年齢や体力に合わせて自然環境の状況を確認しながら無理なく取組めます。その為最近では生涯スポーツとして増加しているとも考えられます。

3. ゲレンデについて

ウィンドサーフィンを実施するゲレンデは九州北部沿岸に広がる玄界灘に面した福津市の宮地浜です。九州は海に囲まれており、海岸ではどこでもウィンド



写真一 愛用の道具

サーフィンができるように思われますが、風、波、浜辺から海までの距離など適したところは限定されています。宮地浜は過去に某航空会社が解散した人気グループを起用し「光の道」としてコマーシャルで使用したことで有名な宮地嶽神社の鳥居の建つ海岸です。余談ですが世界遺産に認定された宗像大社の近隣にあるこの宮地嶽神社には三つの日本一があります。一つ目は「大注連縄」二つ目は「大太鼓」三つ目は「大鈴」です。このように三つの日本一のある宮地嶽神社へ続く参道の始まりである宮地浜は風光明媚な海岸であり、適度な風が入り、波が穏やかで海までの距離が短いウィンドサーフィンに適した海岸となっています。晴天時に海から望む宮地山の眺めは、真っ青の背景に深い緑が浮き出た、まるで絵画のように美しい風景を映し出します。

4. 魅力

ウィンドサーフィンでは二つの魅力があります。一つ目は電気や機械による動力ではなく簡単な構造の道



写真一 海上から宮地山を望む



写真二 宮地嶽神社参道からゲレンデを望む

具により、自然の力を受けて海の上を自由に滑走できることです。

日頃の仕事では、電気や機械による動力を扱い、自然の驚異に挑むことはあっても、自然を楽しむことはありません。しかしそのような日常とは対比的に、大海原の真ん中に身を置き、その日、その時々で目まぐるしく変化する波・風に対して、日常使わない感覚を最大限に研ぎ澄まし、自然の力を借りて海の上を滑走する時の刺激と上手くできたときの爽快感は感無量です。

このようにお話しすると、如何にも波の上を颯爽と風を受けて滑走しているかのようなようですが、現実には人生と同じように甘くはなく、波に揉まれ、風に煽られ、マストに一本背負いされ海面に打ちつけられています。それもまた毎回勉強であり童心に帰ったような楽しさを感じております。

二つ目は会社組織外での肩肘を張らない人間関係です。ウィンドサーフィンを楽しむことを求めて集まった仲間が、老若男女に関係なく互いに声を掛け合い、また、何度も失敗している状況を見ると、教えを請わなくても見ていた誰かが助言するなど、自然に湧き出るコミュニケーションも魅力的です。会社でも同様な環境があるべき姿であり、改善の一つのヒントにしたいと考えています。

5. おわりに

変化を避け、現状維持を求める気持ちが優勢となる中で、新しいことを始めることには相当な内面的力が必要となります。しかし、新しい扉を押し開けることで、自身を活性化でき、今後の人生を豊かにできることは間違いのないと思います。今後はウィンドサーフィンを楽しみながらも、さらにチャレンジを続け、新しい扉を見つけては押し開いていきたいと思っております。是非、ウィンドサーフィンに少しでもご興味をお持ちいただいた方は始めてみませんか。一緒にチャレンジしましょう。

——いけだ ともあき (株)IHI インフラ建設 九州支店 支店長——